

# カナダのフェミニスト国際援助政策 (FIAP) の実施

The Implementation of Canada's Feminist International Assistance Policy (FIAP)

高柳 彰夫

Akio TAKAYANAGI

## はじめに

2017年6月にカナダはフェミニスト国際援助政策 (Feminist International Assistance Policy: FIAP) を発表した。FIAPは以後、今日に至るまでカナダの外務省 (Global Affairs Canada: GAC) を中心にしたカナダ政府の開発援助政策の基本的枠組みとなっている。

CSO(市民社会組織) 関係者も予想しなかったほどにフェミニズムを前面に出した (Equality Fund 2022) FIAPは歓迎された (たとえばCCIC 2017) が、批判や懸念もあった。筆者はFIAPについてその発表直後に論じている (高柳 2018) が、本稿では、2022年に発表から5周年を迎えたFIAPの実施について検討したい。FIAPの実施にはどのような特徴があるのだろうか。FIAPに対する発表直後からのいくつかの批判や懸念があったが、それらは克服されたのだろうか。FIAPにはいくつか数値目標を伴った公約があったが、それは実現しているのだろうか。5年たった今も残る課題は何だろうか。2020年以降の新型コロナウイルス (Covid-19) パンデミックはFIAPの実施にどのような影響を与えたのだろうか。

結論から言えば、FIAPは、キー概念であるフェミニズムやフェ

ミニストが十分定義されていない当初の問題点が残っている一方で、2つの意味で革新性を持って実施されてきた。

1つは、発表当初は「女性・女の子」(women and girls)への言及が多い一方でLGBTQ+<sup>1</sup> (Lesbian, Gay, Bisexual, Transgender, QuestioningまたはQueer, その他のさまざまなセクシュアリティ)への言及がないなどの批判・懸念があったが、実施されるに従って不十分さを残しながらもインターセクショナル(intersectional)な視点が強まっていったことである。もう1つは、従来の開発援助の主権国家間で行われるものというイメージを超え、市民社会や社会運動の役割を重視する特徴があることである。

ここでインターセクショナル、あるいはインターセクショナルリティ(intersectionality)について若干説明しておこう。インターセクショナルリティとはジェンダーや人種など複数のアイデンティティの組み合わせにより人々が経験する周縁化や不利益(や利益)を理解する概念といえよう。インターセクショナルリティとは「交差する権力関係が、様々な社会にまたがる社会的関係や個人の日常的経験にどのような影響を及ぼすのか検討する概念」であり「人種、階級、ジェンダー、セクショナルリティ、ネイション、アビリティ、エスニシティ、そして年齢など数々のカテゴリーを相互に関係し、形成し合っているものととらえる。インターセクショナルリティは、世界や人々、人間関係の複雑さを理解し、説明する方法である」とされる(Collins and Bilge 2020: 2、邦訳書16: 訳文を筆者補正)。

本稿ではまずFIAPについて概観した後、前稿の発表後に出されたものも含め批判や懸念を紹介する(1節)。ついでフェミニズム、インターセクショナルリティなどの重要な概念との関係で

---

1 さまざまな表記があるが、本稿では原典での標記を尊重しつつ、一般的に論じる場合にはLGBTQ+とする。したがって本稿内の標記が多様であることを理解していただきたい。

FIAPの実施について述べる（2節）。さらにカナダのODAのジェンダー平等へのODAの変化（3節）や、FIAPにもとづく特別プログラム（4節）について論じる。

なお、本稿は2022年度の特別研修の成果の一環であるが、学術文献やCSOのレポートとともに、2022年9月にカナダのトロント市、オタワ市を訪問した際に行ったCSOや研究者に対するインタビュー調査にも依拠している。<sup>2</sup>

## 1. FIAPとは

### (1) FIAPの概要<sup>3</sup>

2015年10月19日の総選挙の結果、ハーパー（Stephen Harper）保守党政権にかわってトルドー（Justin Trudeau）自由党政権が成立した。トルドー政権のODA政策の基本的な枠組みとして2017年6月9日に国際開発大臣のビボー（Marie-Claude Bibeau）により発表されたのがFIAPである。<sup>4</sup>

FIAPはフェミニスト・アプローチ（feminist approach）を採用すると述べ、「国際援助のフェミニスト・アプローチは、ジェンダー平等と女性・女の子のエンパワーメントは社会規範と権力関係の転換を必要とする。この目的はその他の開発の優先順位の達成にも不可欠である」と定義する（GAC 2017: 9）。また、FIAPは以下の6つのアクション・ポイント（action points）を持つ。

- 
- 2 特別研修の機会をいただいたことにフェリス女学院大学、特に国際交流学部の先生方、またインタビューにご協力いただいたカナダの研究者やCSOの皆様へ深く感謝申し上げたい。
  - 3 FIAPのプロセスや内容についてはより詳しく高柳（2018）で紹介している。本稿ではFIAPの実施という本稿のテーマを理解する上で最低限のことについて紹介する。
  - 4 FIAPは1年間にわたるInternational Assistance Review（IAR）である。その経緯については高柳（2018）を参照。

- 1) 中核のエリア: ジェンダー平等と女性・女の子のエンパワーメント (Gender Equality and Empowerment of Women and Girls)
- 2) 人間の尊厳 (Human Dignity)
- 3) すべての人々のためになる成長 (Growth that Works for Everyone)
- 4) 環境と気候変動への行動 (Environment and Climate Action)
- 5) インクルーシブなガバナンス (Inclusive Governance)
- 6) 平和と安全保障 (Peace and Security)

さらにFIAPでは、2021-22年までに二国間ODAの95%をジェンダー平等・女性のエンパワーメント関連にする(15%は主目的に、80%はジェンダーの視点を統合したものにする)こと、5年間で1.5億カナダ・ドルの途上国の女性の人権を推進する地元の女性の運動・団体に対する支援を行うことの2つの公約を行った。

## (2) FIAPに対する批判や懸念

FIAPが発表された直後に出された批判や懸念についてはすでに紹介しているが(高柳 2018; Takayanagi 2020)が、その後に出されたものを含めて改めてFIAPをめぐる批判・懸念を整理してみたい。

第一にフェミニスト・フェミニズムの捉え方の問題である。FIAPは前述したようにフェミニスト・アプローチは定義しているものの、フェミニスト (feminist) やフェミニズム (feminism) を定義していない (Brown and Swiss 2017; Tiessen 2019: 8; Tiessen and Black 2019)。関連して、FIAPは対等でない権力関係や有害な規範・慣習にも取り組む点で変革的 (transformative) であると述べるが (GAC 2017: 11), ティーセン (Rebecca Tiessen) は、FIAPは変革的 (transformative: 権力関係や規範など

の問題に取り組む) というよりも手段的 (instrumental: 女性の政治・経済プロセスへの参加に重点を置く) なアプローチにもとづくことを批判する (Tiessen 2019: 8)。あるいは新自由主義的 (neo-liberal) なフェミニズム観にもとづくとの批判も出た (Parisi 2020)。

第二の批判は、女性・女の子 (women and girls) への言及が多い一方で、必ずしもインターセクショリティへの注目が十分でなく、特にLGBTQ+の問題に触れていないことである。FIAPはカナダの開発援助政策において性的指向とジェンダー・アイデンティティ (sexual orientation and gender identity: SOGI) の問題に触れる最初の機会になった (Aylward and Brown 2020)。特にFIAPにおけるビポーの序文において、FIAPは「人権にもとづくアプローチをとり、性別、人種、民族、出生地・肌の色、宗教、言語、性的指向、ジェンダー・アイデンティティ、年齢、能力、移民・難民の地位にもとづくすべての形態の差別を考慮に入れる」(GAC 2017: ii) とインターセクショナルリティやSOGIを視野に入れる文言がある。あるいは男性・男の子のかかわりについても何回も述べている。しかしFIAPでは圧倒的に女性・女の子が言及され、インターセクショナルリティの視点が弱いこと (Tiessen 2019; Rao and Tiessen 2020; Morton, Muchiri and Swiss 2020)、インターセクショナルリティについてGAC内部の理解には一貫性がないことも指摘される (Mason 2020)。特にLGBTQ+の人権についてはトルドーは就任当初から強調してきた (Tiessen and Swan 2018: 189) にもかかわらず、FIAPでは直接触れていない。

第三に、資金や人材といった資源の確保がなされているのかという問題である。トルドー政権が成立した後、援助予算の増額への期待は大きかった。しかしFIAP発表までの間、ODA予算は微増や現状維持にとどまっていた。そして援助額についてFIAPで

は何も述べられていない (Brown and Swiss 2017; CCIC 2017; Tomlinson 2017; 高柳 2018)。人材についても懸念があった。ハーパー政権前のカナダはOECD-DAC諸国の中でもジェンダーへの取り組みは先端的であったが、ハーパー政権下ではジェンダーへの取り組みが、政府文書でジェンダー平等 (gender equality) が男女平等 (equality between men and women) に書き改められたことも含め後退した (Tiessen and Swan 2018)。中間管理職以下では引き続きジェンダーへの高い関心が続いたが、次第にそうした人々が政府機関を去るようになっていった。ジェンダーの専門家が減る中で、ジェンダー平等やフェミニズムに関する専門的取り組みが可能なのか疑問視された (Brown and Swiss 2017; CCIC 2017; Tomlinson 2017; 高柳 2018)。

## 2. フェミニズム、インターセクショナルリティをめぐる議論

ジェンダー・フェミニズムに特化した活動を行い、後述するようにFIAPにもとづいて途上国の女性運動を支援するCSOコンソーシアムの中心であるThe Equality Fundは2022年5月にFIAP5周年を記念するペーパーをウェブサイトに公開し、The Equality Fundの政策提言の責任者のウォロニユック (Beth Woroniuk) と4名のCSO幹部スタッフ (Julie Delahanty, Action Canada for Sexual Health & Rights; Doug Kerr, Executive Director, Dignity Network Canada; Steve Mason, Aga Khan Foundation; Lauren Ravon, Oxfam Canada)、研究者としてティーセンが寄稿している (Equality Fund 2022)。その中で一致している点は、FIAPが開発とジェンダーやフェミニズムについての議論を活発にし、あるいは援助活動におけるジェンダー・フェミニズムを主流化したことである。筆者が2022年9月にカナダで行ったCSO関係者へのインタビューでも、ほとんどの人がFIAPの意義として開発におけるジェンダー平等やフェミニズムについての

議論の場を開いたことをあげていた。ただ、CSOからは、トルドーが2019年総選挙で議席を減らして多数与党から少数与党に転落して以後、国内的にはフェミニズムをあまり言わなくなっているという声もあった。

一方、フェミニスト・フェミニズムの定義については、その後もGACやカナダ政府から定義を示す動向はないというのが2022年9月に筆者がインタビューしたCSO・研究者（特にティーセン）の見解であった。ただ興味深いのは、CSOの1団体から、「カナダではもともとフェミニズムの理解は多様である。私たちも多様性を尊重し、feminismsと複数形でいうこともある。GACをはじめとした政府機関が1つの定義を示さない方がよいのかもしれない」との意見があったことである。

インターセクショナリティについても、引き続き課題であるという声は大きい（Equality Fund 2022で4名が述べている）。一方でGACは2019年2月にFIAPの進化策の一つとしてLGBTQ+（原文ではLGBTQ 2）への支援強化を打ち出し（GAC 2019a）、後述するように途上国のLGBTQ+運動支援を翌年発表した。これはSOGIの視点強化やLGBTQ+支援の具体策として評価された（Equality Fund 2022）。

### 3. カナダのODAによるジェンダー平等支援

前述したように、FIAPでは2021-22年までに二国間ODAの95%をジェンダー平等・女性のエンパワーメント関連にする（15%は主目的に、80%はジェンダーの視点を統合したものにする）ことが公約された。その達成状況を見てみよう。

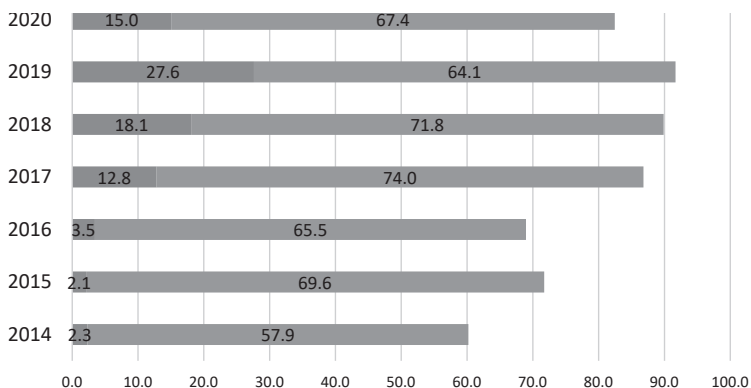
OECDはジェンダー平等を含むさまざまな政策についてマーカー（marker）と呼ばれる、その分野に対する二国間ODA（政府開発援助）の割合を測定するものを作成し、一部については集計の結果を公表している。その政策を主目的とするものをprinci-

pal、主目的ではないがその政策を重要部分にしたものをsignificantとして、集計している。<sup>5</sup>なお、OECDはあくまでも集計対象となるプロジェクト・プログラムの目的にもとづくもので、実際の効果を測定するものではないとしている。

図1は、ジェンダー平等・女性のエンパワーメントに関するマーカー（ジェンダー・マーカー）にもとづきカナダのジェンダー平等・女性のエンパワーメントを視野に入れた二国間ODAの割合の近年の推移を表す。FIAPが発表された2017年からprincipalもsignificantを入れた合計額が大きく増え、2019年にはprincipalが27.6%、合計が93.7%となったが、2020年は新型コロナウイルス（Covid-19）関連の支援を行ったためか、<sup>6</sup>減少している。

DACメンバーで比較すると（図2）、最新のデータのある2019-20年平均ではカナダはアイスランドについて2位であり、DACの中でトップクラスである（OECD 2022a）。

図1 カナダのODAに占めるジェンダー平等、女性のエンパワーメント支援の割合 (%)



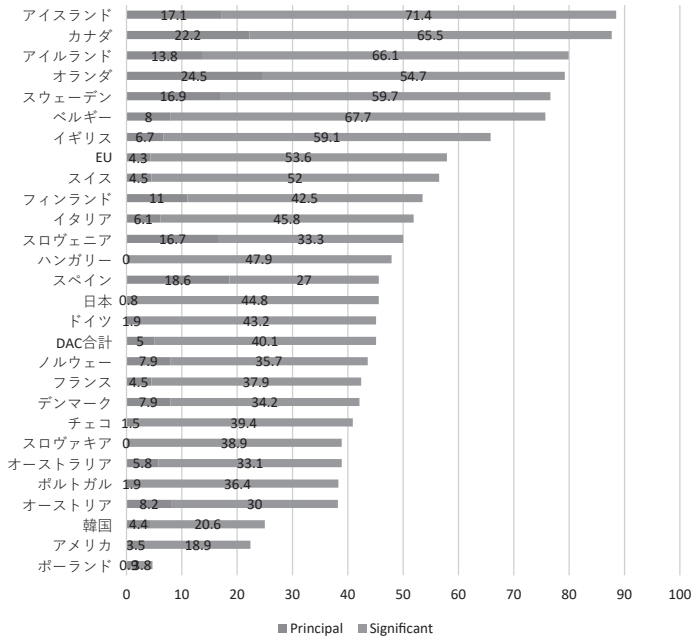
(出典)OECD, Aid in Support of Gender Equality and Women's Empowerment: Donor Charts, annual



FIAPでの目標がどのデータによるものなのかは明記されていないが、DACメンバー間の比較が可能なOECDのジェンダー・マーカーに依拠するならば、2019年には95%を目標は達成に近づき、主目的とするもの15%は2018-20年に達成していた。しかし2020年にはジェンダー関連二国間ODAの割合は減少し、その背景にはCovid-19関連支援があることが推定できる。ただ、significantについては、カナダはFIAP発表前から高水準であったともいえる。

- 
- 5 ジェンダー・マーカーは、principalの例として、女性・女の子を対象とした法的リテラシー、ジェンダー暴力に反対する男性ネットワーク、不利な立場に置かれやすい女性を対象としたセーフティネット、経済計画にジェンダー平等の視点を入れるキャパシティ・ディベロップメント、significantの例として女性・女の子のアクセスも視野に入れた安全な水供給、女性・女の子と男性・男の子の双方の受益を視野に入れたセーフティネットをあげている（OECD 2022a）。
  - 6 OECDによると2020年のカナダのODAの6.0%がCovid-19関連である（OECD 2021）。
  - 7 ODA額に関しては対GNI比（0.7%という国際目標がある）が常に話題になる。表1は支出純額をベースにしている。ODA額については、2019年4月発表の2018年分より、支出純額（net disbursement: 大雑把に言えば、支出総額－借款の返済額）から贈与相当額（grant equivalent: 贈与額＋借款額×グラントエレメント）に変更となった。経年変化の観察のため、支出純額も並行して発表され、表1はその数字を掲載している。対GNI比は2018年以降は贈与相当額をもとに発表されるので、表1にも掲載していない。

図2 二国間ODAに占めるジェンダー平等、女性のエンパワーメント支援の割合



(出典) OECD 2022a

ODA額については、表1のように、カナダのODA額はFIAP発表をきっかけに大きく伸びる傾向にない。<sup>7</sup>

表1 カナダのODA額（支出純額ベース）

年	ODA金額（100万ドル）	対前年比（%）
2016	4153	-2.9%
2017	4344	+4.6%
2018	4595	+5.8%
2019	4521	-1.6%
2020	4871	+7.7%

(出典) OECD, Development Finance Data

#### 4. 特別プログラムの実施

FIAPの実施のためにいくつかの特別プログラム (signature programmes) が行われた。実施時期の早かった最初のものについては評価も行われている。この節ではそれらを紹介する。

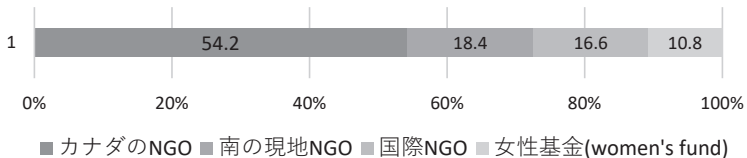
##### (1) Women's Voice and Leadership

FIAPとほぼ同時に発表されたのが、Women's Voice and Leadership (WVL) である。このプログラムは以下を目的としていた (GAC 2022a)。

- ・ 現地・地域の女性の権利の団体のマネージメントと持続可能性を向上させること
- ・ ジェンダー平等と女性・女の子のエンパワーメントを進めるプログラムづくりやアドボカシーのため女性の権利の団体のキャパシティを強化すること
- ・ 政策・法・社会の変化に影響を与えるため女性の権利のネットワークや連合体の効果を向上させる

30カ国で32のプログラムが行われ、合計1.82億カナダ・ドルが供与された (Ibid.)。また、WVLの特徴として、多様なチャンネルを通じて供与されたことがある (図3)。カナダのCSOや国際CSOのみならず、特に現地のCSOを通じても実施されたことは注目される。

図3 WVLのチャンネルの割合 (%、予算額ベース)



(出典)GAC 2022a

WVLについては、CSOによる実施経験の分析とGACによる評価が行われている。

CSOの実施経験の分析は2020年6月にWomen's Rights Policy GroupとCSOのネットワークであるCanadian Council for International Cooperation: CCIC: 同年10月にCooperation Canadaに改称)により出版されている(Women Rights Policy Group and CCIC 2020)。ここであげられている成果と問題点を要約すると以下のようなだろう。

- ・ FIAP実施の肯定的な例である。
- ・ 女性の権利の団体、特に南の現地の団体支援の資金が得にくい現状を埋める意義がある。
- ・ 調査研究に焦点を当てている。
- ・ 大きな課題としては応募段階でのGACの側のコミュニケーション、透明性、一貫性があげられる

GACの手続き上の問題が指摘されているが、プログラムの意義は高く評価されているといえよう。

GACによるWVLの評価も2022年5月に発表されている(GAC 2022a)。これについても成果と問題点を要約しよう。

- ・ WVLは野心的なアプローチをとり、フェミニストのビジョンを現実にすることに成功した。
- ・ WVLは多様な文脈に置かれた女性の権利の団体のニーズに高度に適合した。
- ・ WVLの開始時には、GAC内のプロセスとシステムがフェミニスト・プログラミング(feminist programming)や現地の女性の権利の団体への直接支援の目的に必ずしも見合うものではなかった。
- ・ プロジェクトの実施期間が限られていたことや、Covid-19による実施の混乱があったが、エビデンスを伴って初期における肯定的な成果が認められる。

GACの評価もWVLの目的や内容を肯定的に評価する一方で、特に初期のGACの手続きや組織上の問題を認めているといえよう。

CSOレポートとGAC評価はともに、プログラムの意義、特に南の女性の権利団体の直接絵支援を強調する。しかしGACの手続きや組織の問題を指摘している。

## (2) The Equality Fund

2018年5月にビボーは、途上国のジェンダー平等・女性の権利の団体を支援する触媒(ccatalyst)となる「ユニークなパートナーシップ」についてコンサルテーションを行い、最大3億ドルの支援をカナダ政府は行うと発表した(GAC 2018)。1年間のコンサルテーションや公募を経て、2019年6月に次の国際開発大臣と女性・ジェンダー平等大臣を兼務していたモンセフ(Maryam Monsef)により、GACはMATCH International Women's Fundを中心としたコンソーシアムThe Equality Fundに対して3億ドルの出資を行うと発表した(GAC 2019b)。

MATCH(当初はMATCH International Centre)は1976年に、前年のメキシコシティでの国連世界女性会議の参加者により、南の女性団体支援を目的に設立された(高柳 2001: 74)。その後、ハーバー保守党政権時代の2010年に当時のODA機関であったカナダ

---

8 CIDAは2013年6月に外務貿易省(Department of Foreign Affairs and International Trade: DFAIT)に吸収合併され、外務貿易開発省(Department of Foreign Affairs, Trade and Development: DFATD)となり、トルドー政権発足とともに今のGACとなった。

9 CIDAの支援打ち切りの理由は今日まで公式に発表されていないが、がフェミニズムの立場を強調してきたことや、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ関連の支援を含んできたことが問題視されたこと(高柳 2016: 144-145)とともに、CIDA内部でMATCHの会計管理を問題視していたためとの見方もある(匿名条件の元CIDA職員インタビュー)。

国際開発庁 (Canadian International Development Agency: CIDA)<sup>8</sup>から資金的支援を打ち切られ、<sup>9</sup>解散も検討されたが、職員の刷新や事務管理の大手CSOのWUSC<sup>10</sup>に委託することにより再建された。以下の国際開発CSO(カナダのみならずアフリカの団体も含む)、カナダ国内のフィランソロピー (社会貢献活動) 団体や女性の権利団体、経済界の合同コンソーシアムである。

- ・ 国際開発CSO : MATCH International Women's Fund, African Women's Development Fund, Oxfam Canada, WUSC.
- ・ カナダ国内のCSO : Community Foundation of Canada, Canadian Women's Foundation, Toronto Foundation, Gender Funders Co\_Lab.
- ・ 企業 : Royal Bank of Canada, Yaletown.

なお、中心となるMATCH はThe Equality Fundに改称している。

GACによればThe Equality Fundも南の女性運動への資金的支援の小ささを克服する目的があった (GAC 2019c)。The Equality Fundは、カナダのフィランソロピー、一般寄付や企業からの寄付、GACの支援をもとに、南の女性運動やLGBTQ+の運動を支援する基金をもとにしたフェミニスト・フィランソロピー団体といえる。

2020-21年には66か国で128のフェミニスト団体を支援し、最新の2021-22年には76か国で179のフェミニスト団体に9100万カナダ・ドルの支援を行った (The Equality Fund annual)。

---

10 正式名称はWorld University Service of Canada。もともと学生ボランティア派遣を中心にした活動を中心にしてきたが、今日では専門家を中心とした人材派遣とプロジェクト・プログラム支援の両方を行っている。

### (3) LGBTQ 2 の権利への資金供与

2019年2月にビポーは、LGBTQ 2 (Lesbian, Gay, Bisexual, Transgender, Queer, Two-spirit) の人権を支援するため、今後5年間に3000万カナダ・ドル、その後毎年1000万カナダ・ドルずつを、カナダのLGBTQ 2 の団体を通じて途上国のLGBTQ 2 の団体に行うことを発表した (GAC 2019a)。これについてThe Equality Fundのペーパーで、LGBTQ+のネットワークであるDignity Network CanadaのDoug Kerrは、FIAPを直接実施するものではないが、SOGIの視点に乏しいFIAPに比べてLGBTQ+支援を開始したことに関して評価し、今後毎年2000万カナダ・ドルの支援を望むと述べている (Equality Fund 2022)。

この資金供与については、まだ資金配分や評価は発表されていない。その後GACは世界のLGBTQ 2 I(Lesbian, Gay, Bisexual, Transgender, Queer, 2-spirit and Intersex persons) の人権に関するウェブページをつくり、積極的に取り組む姿勢を見せている (GAC 2022b)。

### (4) 女性の健康と人権への支援

2019年6月にGACは女性、思春期の女の子、子ども (Women, Adolescent Girls and Children) の健康と権利を支援に関する公募を行った。金額は5年間で3.25億カナダ・ドルである。この資金供与については、まだ資金配分や評価は発表されていない。

### おわりに

本稿では、2022年に発表から5周年を迎えたFIAPの実施について検証した。実施の特徴は何か、発表後の批判や懸念はどこまで克服されたのか、FIAPで示された数値を伴った公約は実施されているのか、2020年以降のCovid-19パンデミックはFIAPの実施にどのような影響を与えたのかといった点に注目し、課題を考

えた。

FIAPの意義として開発におけるジェンダー平等やフェミニズムについての議論の場を開いたことがまずあげられる。FIAPの成果として、ジェンダー・マーカーの向上にみられるように、ODAにおけるジェンダーの主流化が進んだ。2020年はCovid-19関連支援の影響でジェンダー・マーカーの数値は下がったが、FIAPで公約された目標は達成（15%はジェンダー平等・女性のエンパワーメントを主目的にする）または2019年までは達成に近い水準（95%をジェンダー平等・女性のエンパワーメント関連にする）であった。

実施上の特徴として、特別プログラムをはじめ女性運動など社会運動を含むカナダのみならず南の現地のCSOとの連携により実施されたきたことがある。ジェンダー平等やLGBTQ+の人権はパートナー国（被援助国）の文脈によっては微妙な問題であり、特に社会運動やCSOを通じた支援は外交問題となる可能性もある。しかしWVL、The Equality Fund、LGBTQ+支援にみられるように、積極的に社会運動やCSO支援を行ってきた。<sup>11</sup>

FIAPにおいて、インターセクショナリティの視点の不十分さやLGBTQ+への不言及は問題点として指摘された。LGBTQ+については、特別プログラムの実施と、引き続き南のLGBTQ+の運動を支援することは発表されている。インターセクショナリティについてもWVLのGAC評価でもその視点を持ったプロジェクト・プログラムへの支援が成果としてあげられているが（GAC 2022a: 26）、まだ不十分と指摘されている。

フェミニストやフェミニズムの定義の不十分さの問題は引き続

---

11 カナダは1968年のCIDA設立以来、NGO/CSOとの連携に積極的であった（高柳 2001）。最新のデータによれば、カナダのODAは2019年には27.3%、2020年には27.8%がCSOを通じたもので、これはDAC全体（2019年には15%、2020年には14%）を大きく上回る（OECD 2022b）。



き課題であるが、CSOの中で、フェミニストやフェミニズムの多様性に配慮して1つの定義を定めない方がよいかもしいといふ見解があるのは興味深い。

最後に、GACの課題として、ODA額全体の伸びが不十分でFIAPが追加的資金を伴っていないことがあげられる。また、WVLでCSOのレポートとGACの評価の両方で指摘されたことだが、GAC内部での手続きや体制に課題がある。

FIAP発表前後から、開発援助政策だけでなく、対外政策全般における「フェミニスト対外政策」(Feminist Foreign Policy)<sup>12</sup>をカナダ政府が策定する期待があった(Tiessen and Swan 2018)。2019年3月には当時のフリーランド(Chrystia Freeland)外相は「世界中の女性と女の子が平等に声をあげ、平等に権利を持ち、平等に安全が保障されることを可能にする」ことを目的にしたフェミニスト対外政策の必要性について述べた(GAC 2019e)が、現在までカナダのフェミニスト対外政策は発表されていない。2022年9月の筆者のインタビューでティーセンやCSO関係者からフェミニスト対外政策の早期実現を望む声が多かった。

FIAPは発表されて5年となったが、特別プログラムは実際に実施が始まって日が浅く、まだ配分の詳細が明らかでないもの、評価がこれからのものもある。また2020年以来のCovid-19による影響もある。今後も成果や評価について、GACやCSOからレポートが発表されたり、新たな研究が発表されたりするだろう。今後機会を見て筆者としてもFIAP実施について引き続き検討を進めたい。

---

12 フェミニスト対外政策はスウェーデンが2014年に発表したのを最初に、フランス、ルクセンブルグ、スペイン、メキシコといった諸国で発表されている。ただしスウェーデンのものは、2022年9月の総選挙の結果に伴う政権交代により、破棄が発表された。

---

## 参考文献

- Aylward, E. and Brown, S. (2020) "Sexual Orientation and Gender Identity in Canada's "Feminist" International Assistance." *International Journal*, Vol.75, No.3.
- Brown, S. and Swiss L. (2017) "Canada's Feminist International Assistance: Game Changer or Fig Leaf." Graham, L. and Maslove, A. eds., *How Ottawa Spends, 2017-2018*, Ottawa: Carleton University School of Public Policy and Administration.
- Cadesky, A. (2020) "Built on shaky ground: Reflections on Canada's Feminist International Assistance Policy," *International Journal*, Vol. 75 No.3.
- CCIC (2017) "Canada's International Assistance Policy is a Bold New Vision for Advancing Gender Equality." Press Release.
- Collins, P. and Bilge, S. (2020) *Intersectionality*, Second ed. Cambridge and Medford: Polity (下地ローレンス吉孝監訳、小原理乃訳『インターセクショナリティ』人文書院、2021年).
- (The) Equality Fund (annual) *The Equality Fund Annual Report*.
- (The) Equality Fund (2022) "Happy Fifth Anniversary to Canada's Feminist International Assistance Policy."
- GAC (2017) *Canada's Feminist International Assistance Policy*.
- GAC (2018) News Release "Canada announces new partnership to fund gender equality and empower women and girls in developing countries." (<https://www.canada.ca/en/global-affairs/news/2018/05/canada-announces-new-partnership-to-fund-gender-equality-and-empower-women-and-girls-in-developing-countries.html> : Accessed December 31, 2022)
- GAC (2019a) News Release "Canada announces new funds in support of LGBTQ 2 rights," (<https://www.canada.ca/en/global-affairs/news/2018/08/canada-is-committed-to-further-supporting-lesbian-gay-bisexual-transgender-queer-two-spirit-and-intersex-policies-domestically-and-abroad.html>: Accessed December 26, 2022)
- GAC (2019b) News Release "Canada and partners announce new legacy investments to support women's rights and gender equality at home and abroad." (<https://www.canada.ca/en/global-affairs/news/2019/06/canada-and-partners-announce-new-legacy-investments-to-support-womens-rights-and-gender-equality-at-home-and-abroad.html>: accessed

- 
- January 7, 2023)
- GAC (2019c) “Global Affairs Canada - The Equality Fund: Transforming the way we support women’s organizations and movements working to advance women’s rights and gender equality,” (<https://www.canada.ca/en/global-affairs/news/2019/06/global-affairs-canada--the-equality-fund-transforming-the-way-we-support-womens-organizations-and-movements-working-to-advance-womens-rights-and-g.html>: Accessed December 26, 2022)
- GAC (2019d) “Call for proposals – Health and Rights for Women, Adolescent girls and Children,” ([https://www.international.gc.ca/world-monde/funding-financement/health\\_rights\\_women-sante\\_droits\\_femmes.aspx?lang=eng](https://www.international.gc.ca/world-monde/funding-financement/health_rights_women-sante_droits_femmes.aspx?lang=eng): Accessed October 21, 2019)
- GAC (2019e) “Statement by Foreign Minister on International Women’s Day.” (<https://www.canada.ca/en/global-affairs/news/2019/03/statement-by-foreign-affairs-minister-on-international-womens-day.html>: Accessed January 9, 2023)
- GAC (2022a) *Women’s Voice and Leadership Program Formative Evaluation*.
- GAC (2022b) “The human rights of lesbian, gay, bisexual, transgender, queer, 2-spirit and intersex persons.” ([https://www.international.gc.ca/world-monde/issues\\_development-enjeux\\_developpement/human\\_rights-droits\\_homme/rights\\_lgbti-droits\\_lgbti.aspx?lang=eng](https://www.international.gc.ca/world-monde/issues_development-enjeux_developpement/human_rights-droits_homme/rights_lgbti-droits_lgbti.aspx?lang=eng): Accessed January 8, 2023)
- Mason C. (2019) “Buzzwords and Fuzzwords: Flattening Intersectionality in Canadian Aid,” *Canadian Foreign Policy Journal*. Vol.25, No.1.
- Morton, S, Muchiri, J, and Swiss, L. (2020) “Which feminism (s)? For whom? Intersectionality in Canada’s Feminist International Assistance Policy,” *International Journal*, Vol.75 No.3.
- OECD (2021) “COVID-19 spending helped to lift foreign aid to an all-time high in 2020. Detailed Note: Preliminary ODA levels in 2020,” Press Release.
- OECD (2022a) *Aid in Support of Gender Equality and Women’s Empowerment: Donor Charts*.
- OECD (2022b) *Aid for Civil Society Organisations: Statistics based on DAC Members’ reporting to the Creditor Reporting System database (CRS), 2019-2020*.

- 
- Parisi, L. (2020) "Canada's New Feminist International Assistance Policy: Business as usual?" *Foreign Policy Analysis*, Vol.16 No.2.
- Rao, S. and Tiessen, R. (2020) "Whose feminism(s)? Overseas partner organizations' perceptions of Canada's Feminist International Assistance Policy," *International Journal*, Vol.75 No.3.
- 高柳彰夫 (2001) 『カナダのNGO-政府との「創造的緊張」をめざして』 明石書店。
- 高柳彰夫 (2018) 「カナダのJ.トルドー自由党政権の『フェミニスト国際援助政策』」(『国際交流研究』20号)。
- Takayanagi, A. (2020) "CSO-Government Partnership: Lessons from the Canadian Experience," *Bulletin of Global and Intercultural Studies*, No. 21.
- Tiessen, R. (2019) "What's new about Canada's Feminist International Assistance Policy: The problem and possibilities of 'more of the same.'" SPP Research Paper, Vol. 12 (44) (School of Public Policy, University of Calgary and the Canadian Global Affairs Institute)
- Tiessen, R. and Swan, E. (2018) "Canada's Feminist Foreign Policy Promises: An Ambitious Agenda for Gender Equality, Human Rights, Peace and Security." Hillmer, N. and Lagasse, P. eds., *Justin Trudeau and Canadian Foreign Policy: Canada among Nations 2017*, Palgrave Macmillan.
- Tiessen, R. and Black, D. (2019) "Canada's Feminist International Assistance Policy: To Whom is Canada Back?" Nimijean, R. and Carment, D. eds., *Canada, Nation Branding and Domestic Politics*, London: Routledge.
- Tomlinson, B. (2017) "Reflections on Canada's Feminist International Assistance Policy," Aid Watch Canada.
- Women's Rights Policy Group and CCIC (2020) *An Analysis of the Civil Society Organizations' Experiences with Women's Voice and Leadership Program*.